

大分地方気象台長からのごあいさつ

大分地方気象台のホームページをご覧ください、ありがとうございます。台長の酒井 亮太（さかい りょうた）です。

大分地方気象台は、1887年（明治20年）に大分市荷揚町に設立された大分県立大分測候所が前身です。1908年（明治41年）に現在の長浜町に移転し、1938年（昭和13年）に国営に移管され中央気象台大分測候所と改称、1957年（昭和32年）に大分地方気象台に昇格して現在に至っており、140年近い歴史を有しています。



近年、毎年のように全国各地で大きな自然災害が発生しています。ここ大分県でも平成29年7月九州北部豪雨や令和2年7月豪雨など大雨災害が発生しており、昨年も線状降水帯の発生や大雨特別警報を発表するなど大雨が発生しています。

また、大分県の東方の海域等で発生する南海トラフ地震や日向灘地震、それらに伴う津波による災害が想定されています。さらに大分県は、九重山、鶴見岳・伽藍岳、由布岳といった火山を有し、それらが全国的に有名な温泉などの重要な観光資源をもたらしている一方で、火山活動が活発化すれば重大な災害をもたらす可能性もあります。

このような状況のもと、大分地方気象台では、県や市町村等の防災機関等と連携して、平時には防災に関する知識の普及啓発や防災意識の向上に努め、地域防災力の強化の取組を進めています。また、顕著な自然災害が発生、または発生が見込まれる場合には、適時・的確な防災情報を提供し、みなさまの早めの防災行動に役に立つ情報発信に努めています。

今後とも、みなさまから頼りにされる気象台となるよう、職員一丸となって、防災機関等と連携して取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年4月 大分地方気象台長 酒井 亮太